

デハに揺られてほろ酔い気分

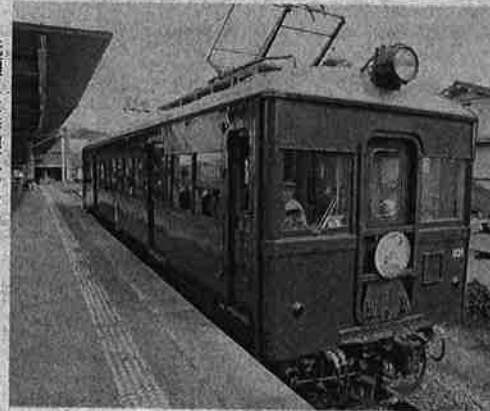
上電友の会 ビール列車が人気

県内外からファン集まり



「乾杯」を楽しむ上毛電気鉄道のビール列車(西桐生駅で)

昭和初期に製造された電車「デハ101」を、上毛電鉄で運行させ、集まった上電ファンが赤城山麓の夏景色を堪能した。ビール列車は、上電



先頭には特製ヘッドマークも

と沿線の活性化を目的に活動する上毛電鉄友の会(入島登志彦代表)が2010年に始めた。1928(昭和3)年に造られた車両を動くホールに見立て、鉄掌DJ・野月貴弘さん

も参加。最新アルバム「MOTOR MAN」上電には、昨年のビール列車で録音した「乾杯」の掛け声が曲に盛り込まれており、ファンにとっては思い出深い楽曲となった。

今年も野月さんをはじめ、県内外から定員いっぱい約35人が乗車。さっそく車内かに「乾杯」し、夏の風と列車の揺れ、穏やかな会話をきかずにビールを飲んだ。

途中、東武鉄道との並走区間では、りょうもう号との競走も。西桐生駅ではスーパールズクッスの特売コーナーも登場し、ヘッドマーク付きの車両と一緒にみんな記念写真なども楽しんだ。

宇都宮市から訪れた大学教員の小川和彦さんは「飲むために電車を乗り継いできました。古い車両もいいし、ヘルズの参加も楽しみ。ヨーロッパでは貸し切り列車も多いので、日本でもこうした企画がもっと増えればいいなと話していた。

貸し切りは10万円。上電によると、デハの貸し切り運転は1往復10万円(運行日の1カ月前までに要予約)。友の会では来年度以降もこうした取り組みを続ける計画だ。